

# 三菱<sup>びし</sup>重工業水島航空機製作所 爆撃のことほか

金光秀直さん

私は今、83歳と高齢になり、戦後70年も経た今でもあの日のことははっきりと  
<sup>(1)</sup>脳裏に焼き付いて離れない。

小学校6年から行く旧  
製の県立倉敷工業学校1  
年の初夏、1945年6  
月22日、戦争はまさに  
日々激しさを増し、学校  
から勤労奉仕で小麦刈り  
に霞<sup>かすみ</sup>橋東岸下の岡崎神  
社まで自転車の人、数十



【勤労奉仕作業】

人と行く。集合して<sup>(2)</sup>点呼を取り数人ずつ何組かに分かれて畑に100メートル位入りか  
けると、警戒警報のサイレンが「ウーン、ウーン」と間をあけて鳴り出した。するとそ  
の時、現在、鷺羽<sup>わしゅうざん</sup>山道路がついている所のゴルフ場のある西の山の辺りより高射砲の  
音がしかけ、B29の飛行機が見えだしたから、小麦の間に身を沈め耳や目を手でふさ  
ぎ、平素から教わっていたように腕立て伏せをし、肘をついておると「ドカドカドカン」  
と腹をえぐられるような、私の体めがけて爆弾が落ちてきた様な音がして、ふさいで  
いた手が外れ、なおも「パン、パン」と音が止まない。首をあげると、船穂の宝満寺の辺  
りより機関砲らしきものを打つ音がし、また玉島戸島神社辺りからもB29を目がけて  
打っておった。やっと音がおさまったと思ってほっとしていると、まわりに人は1人も  
いない。点呼をとった所の土手へ帰ると、友が一人いて二人で土手へ寝転んでいたら、  
またB29が高さ7,000メートル程の上空を10機位が3機編隊でやってきて、前  
回と同じ重工業の上だけに落とした。落とした瞬間は横向きで爆弾はバラバラ見えてい

たが、縦に向くと「ヒューヒュー、ゴウーゴウー」と音がして「ドカン、ドカン、ドーン」ともの凄い破裂音がした。亀島山の上と今の倉敷芸術科学大学の東の山の辺りでも高射砲があり撃つ。日本の高射砲の性能がアメリカには十分わかっていたのであろう。撃った弾は6,000メートル位の高さで破裂するので、撃っても撃っても届かないのだと後でわかった。10回前後来たうちで1回、高梁川<sup>はし</sup>の河口のあたりを水島から玉島の方へ向かっている船(漁船の4~5倍)へ、機密な物を運んでいると思ったのか1回だけ爆弾を落とし、船は影も形もなくなっていた。空襲が済んでグラマン戦闘機が写真を撮ったのかぐるぐる回って帰った。弾の破片がバラバラ落ちているのもわからず、土手に終わりまでいた。

後日、友と船で沖より上がり爆撃地<sup>びし</sup>三菱辺りまで行ったが、会社の建物は鉄骨が無残にも焼け残っていたのを見た。当時の現場をまざまざと見て、少年の心の一隅に戦争の恐ろしさを、生涯忘れえぬものとして残し続けてきた。

そして、その夏ついに終戦となった。

- 
- 1 脳裏...頭の中。心の中。
  - 2 点呼...人員がそろっているかどうか調べること。